

第5回

「メキシコから見た福島の事故」

メキシコ ラグナベルデ原子力発電所 技術部材料劣化担当
マグダレナ・グリス

はじめに

本エッセイへの寄稿依頼をいただき、大地震とそれに続く津波に被災した福島の状況と原子力産業に与える影響について考えを述べたいと思います。特に私は昨年、福島第一発電所を訪問する機会がありました（5、6号機の皆様にはお世話になり感謝しております）。そのことが、このエッセイをしたための理由の1つでもあります。過去19年間、私は専門職としてラグナベルデ原子力発電所に勤務してきました。そして、原子力産業における最大の関心事の1つ、即ち材料劣化の観点で原子力発電所の長期的な安全運転を維持するための国際的な取り組みに参加し、多くの方々と会う機会がありました。

本エッセイでは、今年福島で事故が起きてからこれまでに私が得た知識と印象をまとめます。

事故の把握

今年3月11日に日本で地震と津波が起き、日本に降りかかった悲劇に世界の注目が集まりました。私はまず福島第一原子力発電所で働く友人達が心配になりました。彼らのご家族や仲間の安否を電子メールで問い合わせました。幸い、ある友人から返信がありました。発電所の状況は非常に深刻で、安定した状態に制御するために職員が36時間以上休みなく働いているとのことでした。事故のさなかにいる人から話を聞いて、事態の重大さを想像することができました。

メキシコではニュースが混乱しており、信頼できない情報ばかりでした。幸い、原子力関係者は、より信頼できる情報を得ることができました。特に、米国

NRCや欧州の組織が発表した情報から事故の推移を知ることができました。そして、発電所及び非常用の設備の応答は設計どおりだったと結論しました。まとめると、複数の大きな事象が発生して、このタイプの原子炉（他のタイプでも同様）の設計基準の想定を超える損傷が系統及び機器で発生しました。言い換えれば、今回の日本の事象は、どの原子力発電所でも対応を準備していないものでした。また私の見解では、事故の影響はチェルノブイリ事故ほど苛酷ではありませんでした。

正しい情報の重要性

前述のように私は信頼できる情報を得ていたの、知人、家族及び一般公衆に正しい情報を伝えるように努めました。十分な知識に基づく意見を持つためには、実際に起きた事象とその対策を知ることが重要だからです。原子力に反対する意見は今回の事象が起きる前からありましたが、現在は反対意見が増えており、原子力産業が発展し続けることが難しくなりつつあります。原子力発電所は安全ではない、その運転には高いリスクがある、そして発電所の新規建設だけでなく長期的な運転も否定しかねない甚だ誤った考え方が、彼らに共通する意見です。少なくともメキシコではそのようなことが起きつつあるようです。どのような事象でも、原子力発電を後退させる理由にしようとする人たちがいます。

おわりに

今回の予期せぬ事象後に人々が抱いた考え方を変えるため、原子力は最も信頼性の高い発電オプションの1つであるとしてできるだけ多くの人に伝えることは、

原子力事業に携わる者の責任であると考えます。

2011年08月